
ペットの未来はどうなるの！？

ネコキング

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ペットの未来はどうなるの！？

【Nコード】

N2264K

【作者名】

ネコキング

【あらすじ】

買い物帰りの主人公、佐藤田竜太が帰り道に猫を2匹拾った。猫は虐待を受けていたらしく、すぐさま病院に行くことに・・・その2匹が主人公の歩むべき路へと導いていく！

（前書き）

孤児だった男の子がここまで名前を挙げた理由・・・
その理由はたった2匹の猫と、その周りにあったつながりだった。
彼は今日も夢に向かって走り続ける。その夢に向かって・・・！

俺は孤児だった。親も金も何もない。そんな俺を拾ってくれたのが、虹色孤児院。

俺は嬉しかった。周りに人がいて会話することに幸せを感じていたんだから。

でも、そんな日に、とある問題が発生した。

その日は買い物に行っていたときだった。

「ミューミュー」

「？猫？」

公園にさしかかった当たりで、急に猫の鳴き声が聞こえた。俺は、10歳になったばかりで、やっと買い物をするされたばかりなのだ。この近くにスーパーは1軒くらいしかなく、孤児院から行くのには公園の前を通らなくちゃならない。その公園の前にさしかかった当たりで猫の声がしたのだけれど、姿は見えなかった。10歳になったばかりの俺は、好奇心に負けて、猫を探してみることにした。すると、ベンチの上に、段ボールと紙があった。

「とある事情でこの猫を飼えなくなりました。あなたが責任を持って育てて下さい・・・って、ええ！？・・・コイツ、捨てられたのか？」

「ミュー・・・」

「あれ？お前どこ行くんた・・・あつ・・・」

猫が行った方角を見ると、瀕死の状態の猫が・・・

「ど、どうしよう・・・でも、命には替えられないし・・・ええい！病院に行くぞ！」

「みゅーみゅー！」

「お前も来るんだよ！」

「ミュー！」

「つて、はやっ！走るの早！・・・まあ、早いほうが良いか・・・行くぞ！」

この辺で一番近い動物病院は、優しいことで有名な、永無病院だ。ながなしびょういん

「ミュー、ミュー」

「大変だよ！永無達夫！」ながなしたつお

「フルネームで呼ぶな！ガキが・・・つて、その猫どうしたんだ！？酷い怪我だな・・・よし、治療室に入れ！」

「うん！」

そうして、治療室・・・

「達夫！助かるか？」

「年上の人を呼び捨てすんな！・・・まあ、これ位の怪我なら助かるだろ。ひでーことするな。最近の奴は・・・」

「それってどういう意味？」

「この猫、多分蹴られたんだな。俗に言う虐待って奴だ」

「今までの飼い主は虐待してたって事か？」

「そこまでは分からない。っていうか、この猫どうしたんだよ？」

「拾った b」

「いや、拾ったって良いながら親指立てんな・・・親指をなぜ下に向ける！？」

「え？・・・なんとなく？」

「はてなっけんな！まあ、孤児院だし、飼えないんじゃないのか？」

「大丈夫だつて、園長先生脅してでも飼うから」
「お前、見かけ以上に酷い奴だなよな」
「そう?」

――――

「え?猫飼いたい?ダメだよ、竜太」

ところ変わって、ここは虹色孤児院・・・
さなぎだりゅうた
遅くなったけど、俺の名前は佐藤竜太!バリバリの小学4年生だぜ!

「園長先生、そこを何とか!」

「うゝん、でもー」

「園長先生が、ガン。ラ買ってるのばらしちゃうよ!」

「わ、わかった。飼っても良いよ。その代わり、ちゃんと竜太君が面倒を見るんだよ?」

「わかってるって!」

こうして、俺は猫を飼うことをゆるして貰った。ホントに脅しちゃった

「名前はどうしようかなゝ・・・タマは、一般的だし、クロもいまいちこないしなゝ・・・」

よしっ!孤児院の名前をとって、ニジとイロにしよう!お前の名前は今日から佐藤ニジ&イロだ!」

「「みゃゝ!」」

「おつ、ノリいいなあ!?」

後で分かったことだけど、孤児院で動物を飼うのは、ウチの孤児院

が世界初らしい。

そのあと、なんだかんだで取材班が来たりしたんだぜ？凄くね？でも、ほとんどの取材の人は、孤児院で飼育するのが珍しいからって言う理由だけだった。でも、そんな中、1つの取材班が、他の奴らとは違うことを聞いてきた。

「この猫は、どうして耳がかけてるの？」

そう、このニジのほうは、耳がかけていた。虐待にあった方だ。

俺は、その取材してきた奴にその理由を話した。

「竜太君、このテレビで、動物の虐待が訴えられるかもしれないよ！？」

「え？」

「これで、ドキュメンタリー作って、他の多くの動物を救えるかもしれないんだよ！」

その後、ニジとイロのことについて詳しく聞かれた。もちろん、俺はすぐにでもハイといった。

ここで、ニジのことについて説明しておく。

ニジの虐待による被害は、酷かった。虐待にあったせいで、人間に對して、おびえしか持たなかった。

さわったりすると、すぐにはいってしまうと言う状況で、怪我事態が、耳がかけている、足が切断せざる終えなくなっていたこと、現に今、前右足が半分から下が無く、先生お手製の車輪みたいなのを付けている。背中にはやけどの後もあった。もちろん、切り傷が一番酷かった。身体の所々にあって、治療もせずに放っておいたからか、傷

口が化膿していて、切り傷の周りの皮膚を軽く押すと膿が出てくる状態だった。それから、1週間にわたって、再現ドラマが完成。それは、ドラマが完成してから、1ヶ月後に放送された。その後の反響が凄くて、一気に法律への系口へとこじつけた。そして、その1年後、動物愛護法が成立。虐待すること自体が犯罪となった。

でも、虐待自体が完全になくなったワケじゃない。虐待されたイヌや猫などは、何万、いや、何億と居るし、捨て犬や捨て猫の問題だつてたえない。

保健所送りになったイヌや猫は、そのほとんどがガス室送りにされる。曜日ごとに振り分けられて、そこにいるイヌや猫たちは死を待つことしかできないのだ。ほんの少しのイヌや猫はもつと苦しい目に遭う。医療機関の人たちは、元気のいいイヌや猫などをえりすぐりにして、人間社会の発達のための『実験台』にされるのだ。例えば、ウサギ。ウサギは涙腺が小さいので、目に薬品を流し込む。そうすると、たちまちにウサギの目はただれて腐ってしまう。そうすると、ゴミのように捨てられてしまうのだ。

イヌなどは、脊髄を切断されて、自然回復するのかなどの事に使われる。使い物にならなくなったと判断されれば、これもまた、ゴミのように捨てられてしまう。

こうしている、1秒1秒に、イヌや猫などが何万匹と殺されているのだ。

イヌたちがこうなることを望んだわけでもない。こうなるまでの経緯は、全て人間にある。

人間が、ドラマや映画、アニメなどを見て、自分もこんなペットを

飼ってみたい。そう思った時点でそれは間違いだ。ペットを飼うときには、そのペットにとって、自分の家は最適な環境といえるか。自分で、最期まで責任を持って育てられるかなどだ。今では、ペット保護団、アークなどが活躍している。

外国では、ペットショップはない。ほとんどの人がペットを飼いたいと思ったら、アークにいくのだ。

そこでは、面接試験なども用いられて、その人がイヌを飼う資格があるかどうかなどを見極めているという。

今俺は、外国を見習って日本を外国のようにさせたいと日々努力を重ねている。

1人でも多く、イヌやねこなどを捨てる人がいなくなったら・・・そんな日々を目指して、俺は今を歩いている。

（後書き）

短編かくの初めてです。意外にキツイ・・・
ですが、この小説を見て、動物への意識が増えると嬉しいと思います。

皆さんは、いつも周りの動物に興味を持っていますか？その興味は、ドラマや映画、アニメなどの影響ではありませんか？動物をモノだと思っていないませんか？

ペットはペットでも、一つの命です。人間も大まかに分けると動物に入ります。

子供の虐待を酷いと思うなら、周りをよく見て下さい。世の中には、シャンプーやリンス、口紅と、たくさんのモノがありますが、そのものは全て動物実験を行っているモノです。身の回りにあるモノ全てが実験を経て私たちの元に来ていることを忘れないで下さい。私も、外国のような意識が高まった未来を期待しています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2264k/>

ペットの未来はどうなるの！？

2010年10月8日16時12分発行